

大学コンソーシアム大阪
事務局長

や ぎ たか まさ
八木 孝 昌 さん



プロフィール

1941年、京都市生まれ。岐阜県立本巣高校、大阪市立大学を経て大阪市立大学生活協同組合に就職。6年後の71年には専務理事に就任。以来、退職するまで32年間にわたり専務理事を勤める。03年、大学コンソーシアム大阪に事務局長として迎えられる。04年には、大学コンソーシアム大阪が主催した第1回音楽祭での「交響幻想曲 淀川」復活上演を実現させ、現在は今年11月に行われる第2回音楽祭の準備に奔走中。著書に『大阪府生活協同組合連合会50年史』ほか。

2004年11月「交響幻想曲 淀川」を演奏する相愛オーケストラと大阪市立大学合唱団フリーズ及び府内大学学生合唱団有志(於:近畿大学11月ホール 写真提供=八木さん)

交響幻想曲"淀川"を、 大阪の"第九"に

11月12日(土)、大阪市中央公会堂で「第2回大学コンソーシアム大阪音楽祭 大阪ファンタジーの夕べ」が開催される。

プログラムを代表する曲が「交響幻想曲 淀川」。作曲は、大阪生まれの現代音楽作曲家、松下眞一さん。山奥で生まれた一滴が、せせらぎとなり琵琶湖に注ぐ光景を描いた第1楽章に始まり、大阪を貫流して海に注ぐ第4楽章では、合唱曲が希望の町、大阪を高らかに歌い上げる。74年に作曲、初演されたあと埋もれていたが、昨年の第1回音楽祭で30年ぶりに復活上演され話題を呼んだ。

この「交響幻想曲 淀川」を、音楽祭の目玉として登場させた仕掛け人の一人が、大学コンソーシアム大阪事務局長の八木孝昌さんである。「大阪が持っている文化的な財産として、世界に誇れる曲でしょうね。ウイーンにドナウ川が流れ 美しき青きドナウ という曲がありますが、それに匹敵する優れた曲といえます」。

そのすばらしい曲が、30年間も演奏

されなかったのは、「スポンサーがつかなかったため。大学コンソーシアム大阪では、オーケストラや合唱団を持つ大学が手弁当で協力してくれるため、演奏を実現することができるのです」。今回はさらに、大阪を素材にした大栗裕さん作曲の「大阪俗謡による幻想曲」を加えることで、「大阪を代表する二つのクラシック曲を、同時に鑑賞できる初めての音楽祭」が実現することになる。

生協で阪神タイガース割引

八木さんは京都市生まれ。疎開のため家族で岐阜県に移ったが、下宿生活をしながら大阪市立大学で学び、同大学の生活協同組合に「卒業生第1号」として就職している。生協責任者としての期間が長く、大学生協に関する著書があるほどだ。

知る人ぞ知る、阪神タイガースファン。それも「確か私が小学生で、ミスタータイガースと言われた藤村富美男が現役で活躍していた頃から」というからハンパではない。パース 掛布、岡田らを擁し、吉田義男監督の下でリーグ優勝と日本シリーズをも制した85年には、

「優勝したら、食堂の全メニューを半額に」と宣言。「本当に優勝しましてね。どこにこれだけの学生がいたのかと思うぐらいの人数が押しかけたものです(笑)」。「公立の大学生協で、こうしたサービスが出来たのも、やはり大阪ならでは」と、今も語り継がれているエピソードである。

ところで、03年に設立された大学コンソーシアム大阪には現在、府内の4年制大学48校が加盟している。主な事業に、大学間の枠組みを乗り越えての共同事業と、地域社会貢献事業がある。先に紹介した音楽祭は社会貢献のひとつ。一方、共同事業として、他大学で履修した科目を所属大学の単位として認定する制度の立ち上げをめざしている。「これが実現すると、大阪全体がエリアの、画期的な制度になります」と八木さん。最後は再び音楽祭の話題に戻り「年末に第九が演奏されるように、大阪で 淀川 の演奏が恒例行事として定着してくれば、こんなにうれしいことはないのですが」と夢を語っていた。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)